



安井乙熊編輯

明治英名百人首

發兌

柳心堂

全



題言

人誰か志おからんや其志を以てし事あり歎ありて能く其志と申す不足る世に志を無き事祈願成福候とば奈の然志と立身と修め一家と為す此心意を修生とてむるものなり此日御相志を主人の志を以てし明治中興已身立延此御旨の御陸海軍此諸將校候まじ先華族儒紳学士新少記者等に至るまで何れも江潮を名なる各位の待敵候輯め附する小画係小傳を以てして子牙御め小之を誦候するに際各位の才藝如何を知りて志修身の一端とせんといふ事ありたり然るに其子牙御者誤譯杜撰必多き人仰ぎ其美くはをその諸君行ふの志を惜まざる人全や刻成る將に發布せんやす依て一言を茲に記はと云爾

明治十五年春三月

其の居士 梓祐

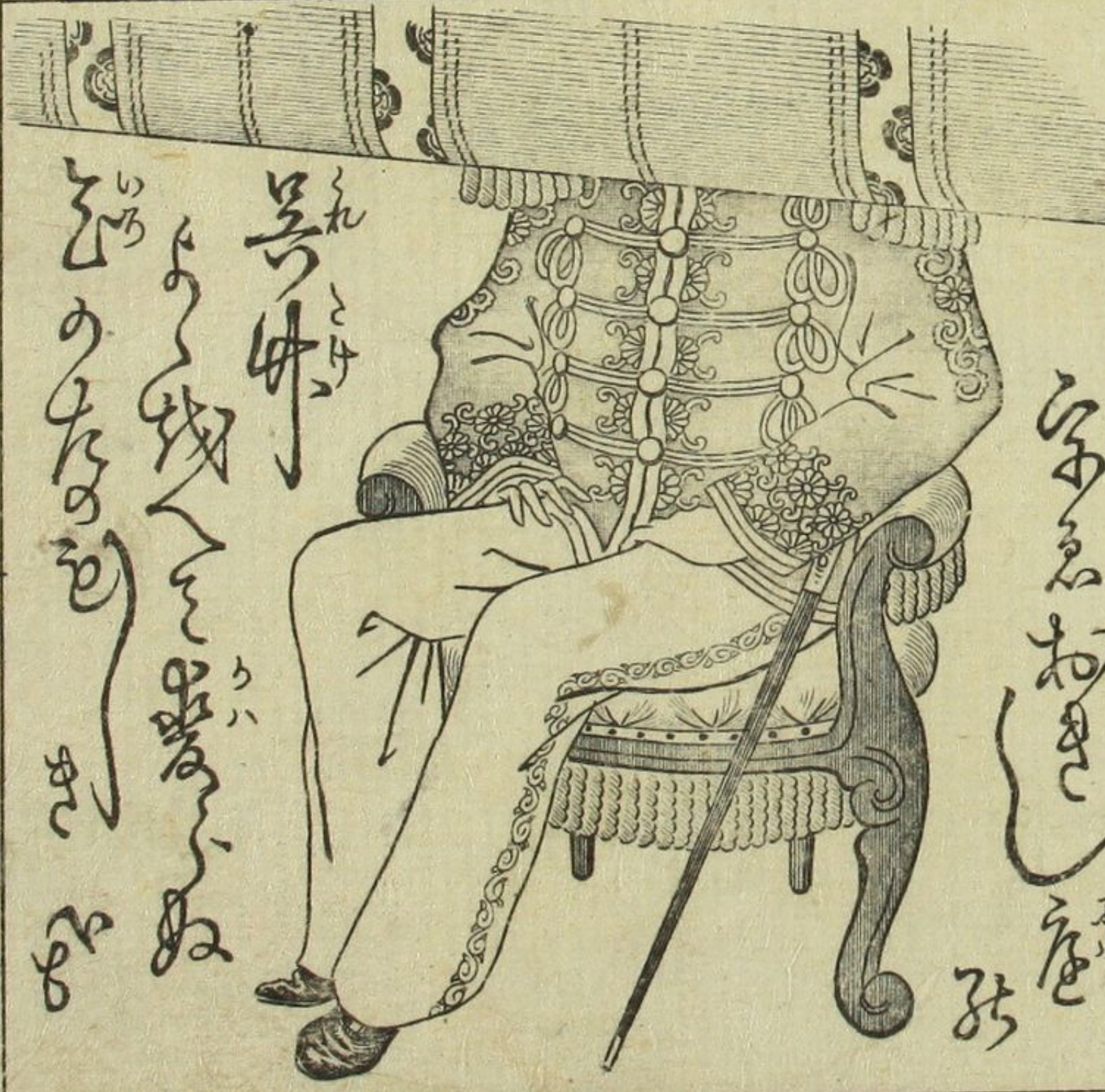


金聲玉振

垢耻生

嘉永五年九月御降誕ありせ
 うる御諱を睦仁と申し奉り
 孝明天皇第一の皇子なりて
 御母ハ従一位中山忠能卿の
 女二位局中山慶子なり慶應
 三年正月皇祚を踐せられ明
 治元年八月二十八日即位の
 礼を行ひ給ふ后ち海外萬
 國と通信交際を開き内東幸
 西巡あり親しく民の疾苦を
 問ひ給ふとの有がとくも又
 かしこけれおほ聖壽幾萬々
 歳を祈り奉る耳あり

今上天皇



嘉永三年四月十七日の御誕
 産あり御名を美子と申し奉
 り御父ハ故一條前左大臣忠
 香卿あり 皇后宮天性聰明
 惻發不巳とらせられ畏しと
 くも宮中不養蚕場を設け養
 蚕の業を親らあり給ふ又歌
 道を好ませられ雅調多く
 時々学修院女学校おどへ行
 啓あふせられ生徒の勉勵を
 賞さる又鰥寡孤獨の者を憐
 と給ひ御手許金あど賜ふと
 少なからびと聞侍べる



卿ハ二位局慶子の父あり曾
 て議奏たりし時幕府開港互
 市の勅許を請ふ卿之を不可
 とし屢々攘夷の説を唱へ家
 人田中河内介をして九州有
 志の士を鼓舞せしむ既わ
 て時勢漸く変ゆる不遇ひ一
 且洛北岩倉山へ退隱せしが
 猶三條岩倉等と共に内勅を
 諸藩不傳へ遂不復古の業を
 成せり明治元年十二月議定
 不任ト従一位准大臣不補せ
 られ二年神祇伯不任ト



卿ハ前右大臣公純卿の子也
 維新の日内國事務總裁とな
 り専ら内政を管理を又議定
 とあり官制を改むる不及ん
 で大納言とある明治二年外
 務大丞大樂源太郎等乱を山
 口不起の時小鎮撫使を命ぜ
 られ往て之を戡定於四年大
 納言を免せらるる后幾バくも
 なく侍従長とあり遂に宮内
 卿に任ぜられ侍補を兼ね卿
 の國事不勞せらるるに短紙
 は盡に所不あらず

卿ハ大納言公時十五世の孫
 権中納言實勲卿の子也文化
 八年二月平安小生る為人新
 然雄偉家を起して光格仁孝
 孝明今上の四朝不歴事以卿
 ハ世不所謂る脱走七卿の一
 人にして維新の功臣あるハ
 衆人の知る処あり又和歌を
 よく以明治十三年八月廿四
 日東京不薨於年七十勲二等
 旭日重光章を賜ふ尚主上皇
 宮より金幣及び魚鳥酒菓等
 を給ふて祭祀不供せらる

從一位宮内卿德大寺實則卿
 名をいそふ
 子承ひそくそふ
 子承ひそくそふ
 子承ひそくそふ



故宮内省御用掛三條西
 季知卿
 あなま
 うか
 子承ひそくそふ
 子承ひそくそふ
 子承ひそくそふ



君ハ初め名を阿銘と云ふ旧
 岩村藩士平尾録藏氏の女
 其の性伶俐敏ホして和
 漢の学不達し殊不和歌を善
 く以年十三歳のとき千艸の
 深替五巻を著ハ其の学才
 想ふ可きあり明治五年宮内
 省十五等出仕御書物掛を命
 せられ幾く程もあく権命婦
 を拜命以曾て名を歌と賜ひ
 し時の詠不
 程もあき袖少ハいくつむぎ
 大山内不流とる若菜茂



権命婦平尾歌子

清純
 も
 り
 子
 は
 心
 づ
 け
 ら
 れ
 ぬ
 心
 づ
 け
 ら
 れ
 ぬ
 心
 づ
 け
 ら
 れ
 ぬ

卿ハ土州の藩士あり始め楠
 左衛門と呼び后不太一郎と
 改む年若ふして江戸不來り
 若山莊吉大橋訥庵等の門不
 遊び心を螢雪の業不寄せ勤
 学怠らば頗る得る所あり文
 久年間学修院御用掛を命ぜ
 りる又復古の際心を勤王不
 竭し其功鮮ああらば依て賞
 典祿百石を賜ふ明治元年江
 戸府判事不任ト后樞密大史
 又ハ大内史等の諸官を経て
 いま正五位宮内少輔たり



宮内少輔土方久元卿

社稷名臣萬
 世師
 除
 誅
 奸賊策
 何奇君看
 帝室中興業業
 渾在禪庭捧履時

宮ハ孝明天皇の皇妹ノ一
 弘化二年十二月十一日の御
 出誕あり親子内親王と稱し
 奉る文久三年十一月御歳十
 六の折関東へ下向せられ徳
 川十四代將軍家茂公に嫁し
 給ふ慶應二年將軍家茂公薨
 去せらる、后宮ハ靜寛院と
 稱し給ふ明治十年病痾療養
 とし相州箱根温泉場へ赴
 りれ人浴中遂に二豎の爲め
 三十余年を一期として該地
 不薨去せらる

卿ハ前大納言實兼卿の子
 して維新前已少將たり王
 政復古の日岩倉卿を先鋒總
 督となし卿を以て東海道鎮
 撫將軍小拜し前侍從柳原前
 光卿と共に薩兵等を率ゐて
 東下し大に處分なる処あり
 徳川慶喜公其罪不服し関東
 平定の効を奏せるもの卿の
 から多き小居るといふ明治
 元年以來諸官を経て現時正
 二位式部權助みして二等掌
 典を兼ねられたり



卿ハ贈右大臣實萬卿の弟二
 子小して孝明天皇の朝小中
 納言とり文久二年勅を奉じ
 て江戸小来り幕政を革め攘
 夷の議を謀る翌年廷議一変
 遂小三条西季知卿以下と俱
 小長州小走る明治元年関東
 監察使左近衛大将小拜せら
 れ徳川氏を処置後右大臣
 小轉ト左大臣小遷一四年
 太政大臣小拜せられ従一位
 叙れ實小中興の元勳小して
 國家社稷の臣といふべし



氏ハ旧麻見島藩士ちり南洲
 と号し身体偉魁才略衆小秀
 づ其議論慷慨を以て屢
 忌諱小觸れ三たび大島小流
 さる維新前後の功擧て數ふ可
 らげ復古第一の功臣あり后
 参議とあり正三位小叙せら
 れ陸軍大将小拜せらる六年
 征韓の論合ざるを以て冠を
 挂て故山小帰る同十年二月
 桐野篠原等と乱を九州小起
 轉戦八閏月遂小九月廿四
 日岩崎谷小戦死す



宮ハ一品熾仁親王の子也天
 保七年を以て生れ初め太宰
 帥宮と稱し明治元年征討大
 總督小拜せられ錦旗節刀を
 賜ひ東北不逞の徒を討しむ
 四年福岡藩知事となり八年
 元老院二等議官となり尋て
 議長とある十年西州乱る宮
 再び征討大總督小拜せられ
 諸將を率て之を討ち賊魁を
 斃し右陸軍大將となり大勲
 位菊花大綬章を賜ひ十三年
 一月兼左大臣小任せらる



卿ハ通稱を市藏といふ鹿兒
 島縣の士族なり西郷隆盛等
 と和漢の学を研究し尤も経
 濟不通於王政維新の際參與
 とあり明治二年参議小任し
 従三位小叙せらるる六年内務
 卿小拜せられ七年辨理大臣
 とあり清國小使於十年西南
 の役起る大勲力を征討し小
 功を以て勲一等小叙し旭
 日大綬章を賜ふ十一年五月
 十四日兇徒島田等の為小要
 殺せらる天下挙て之を惜む



卿ハ村上源氏具慶朝臣の子
 不レ以テ稟性豪邁才略絶倫
 毎レ朝家の微弱を憤り心
 を竭シテ皇室を補佐し有志
 を招き事を謀る復古の時参
 與トあり明治二年大納言小
 拜せられ四年外務卿ト轉リ
 右大臣ト遷り特命全權大使
 となり歐米各國ト使シ九年
 従一位ト叙せらる十年西海
 道大不レ乱る卿獨り東京ト駐
 り謀を惟幕の中ト運ラ其
 功少クありらばとりふ



卿ハ旧佐賀藩の人也為人精
 悍經濟の術ト富ク富國の才
 小長ク維新前旧藩主閑叟公
 小説トて王政復古の業ト小力
 明治元年召サれて参與ト
 あり幾クもレ参議ト遷ラ
 七年兼大藏卿ト任セられ正
 四位ト叙せらる王政維新以
 来度支の官ト居り用度曾テ
 窮せば台湾の役西南の變ト
 輜重欠り速ク其効を奏シ
 るものハ皆其力ト依リとい
 ふ十三年專任参議トなる



卿ハ山口の人通稱を準一郎
 といふ天資剛邁大度年若く
 して江戸小来り江川勝等の
 門小入り頗る志人の間小聞
 也明治元年徴れて總裁局顧
 問とあり郡縣の制を定む三
 年参議小轉ば九年請を許し
 参議を罷め内閣顧問小拜於
 十年一月車駕小扈し京師小
 到り四五月の交宿痾再発し
 て五月廿五日遂小旅館小薨
 け年四十四後其子を華族小
 列し従五位小叙せらる

卿ハ旧山口藩の人あり度量
 宏公小して膽略あり復古の
 際功勞甚ど多く后徴されて
 參與小拜せられ又参謀とあ
 り東羽鎮定の功を以て従三
 位小叙せられ参議小遷る明
 治四年一月五日の夜兇徒の
 為め其邸小暗殺さる主上
 悼惜し給ひ正三位を贈られ
 賊を天下小索むる未賊の縛
 小就くもの數十人十三年五
 月該兇賊を刑罰小処し其獄
 を結びたりと

贈正二位木戸孝允卿



松みよ
 ちとふふ
 ちとふふ

故参議廣澤兵助卿



渺々江萬
 秋風乱
 里柳葉
 飛飄似
 蓬江
 邊月出

煙光淡暗
 寒香入艇中

卿ハ通称を民平と呼び江藤
 新平古賀逸平と合せて佐賀
 三平と称し頗る有名の人也
 若くして和漢の学小勉強し
 最も法律学小精し維新前旧
 藩主の命を受けて薩長の士と
 復古の業を賛け明治元年召
 れて參與又参謀とあり車駕
 小扈して東小下り同二年東
 京府知事小任せられ四年民
 部大輔より民部卿小轉し又
 参議兼司法卿とあり十三年
 参議兼議長小拜せらる

氏ハ長州の人也性剛強擊劍
 を克く以て戊辰の役大ひ小功
 あり賞典祿六百石を賜ふ明
 治二年二月参議小任し従四
 位小叙せられ同十二月兵部
 大輔小轉じ三年大臣等と議
 合ハば終つ小辞職して故山小
 帰り常小不平を抱く九年熊
 本の神風連及び長岡久茂等
 と謀を通じ百餘人を集合し
 官兵小抗せれども毎戦利か
 く遂小宇龍港小於て捕縛さ
 れのち山口小斬せらる

参議大木喬任卿



紀綱落
 七百年
 錦旗
 大仇一敗
 百萬虎將
 征北邊
 肝膽碎

故兵部大輔前原一誠



麻を
 世の中
 十

卿ハ長州の藩士にして毛利氏の家臣となり天資強悍深く兵学小志一曾て高杉晋作等と義旗を樹て大ひ小俗論黨を破る復古の際越後口の参謀とあり明治二年西郷真吾と共小命を受けて英國小留学に後歴止官して陸軍中将兼参議陸軍卿小拜せらる鹿島乱興るの時参軍とかり總督の宮を補佐し鎮定の功を奏し十一年参議小して参謀本部長を兼任せられたり

卿ハ元熊本の藩士也機略超邁小して漢洋の学小通下耶蘇教を信し実学を務む世の攘夷を論ぐるの日已小開國の説を主張し故小其藩士小斥けられ逃れて土州小入り終小越前小投下て春嶽公の寵を得公小説ひて屢々其才を試むる事を得たり復古の時徴されて参與とかり京師小在り大ひ小歐米の文明を讚美するを以て俗論士の為め害せらる

参議山縣有朋卿



此の如く
 参議山縣有朋卿
 此の如く
 参議山縣有朋卿

故參與横井平四郎卿



天亦不公
 如有私
 官花已
 早野花
 春權柄
 若使我執
 千紅一
 度披

卿ハ鹿兒島縣の士族也始め
 名を陶藏と呼ぶ年若くして
 蘭学小堂雪の功を積心
 医術小用お文久年間江戸小
 未り松本某と改名一医業を
 開けり后藩主の内命を受けて
 森鮫島吉田町田五代等の諸
 氏と英國小留学し大い小得
 る処あり明治元年帰朝時
 小王政維新内外多事國家の
 為め尽力勉みりらば後諸官
 も歴参議兼外務卿小拜せり
 此十三年専任参議となる

参議寺島宗則卿



満園風雪
 五更天爐
 上閑談坐不眠夜
 氣白坐虛實裡忽
 聽鑽燧響厨前

卿ハ鐵心と号け大垣藩の國
 老より其藩政を治むるや大
 ひ小文武の業を起一年少者
 をして之小從ハハむ又福
 原越後の京師小入らんとは
 る幕命を以て一隊の將とち
 り伏を置て之を待つ長兵銳
 進し伏兵小遇ふて挫敗し終
 小京小入るを得ば王政復
 古の際召されて參與とかり
 幾くもかく其職を辞し老を
 故山小養ふ明治五年病を以
 て遂小没け

故參與小原仁兵衛卿

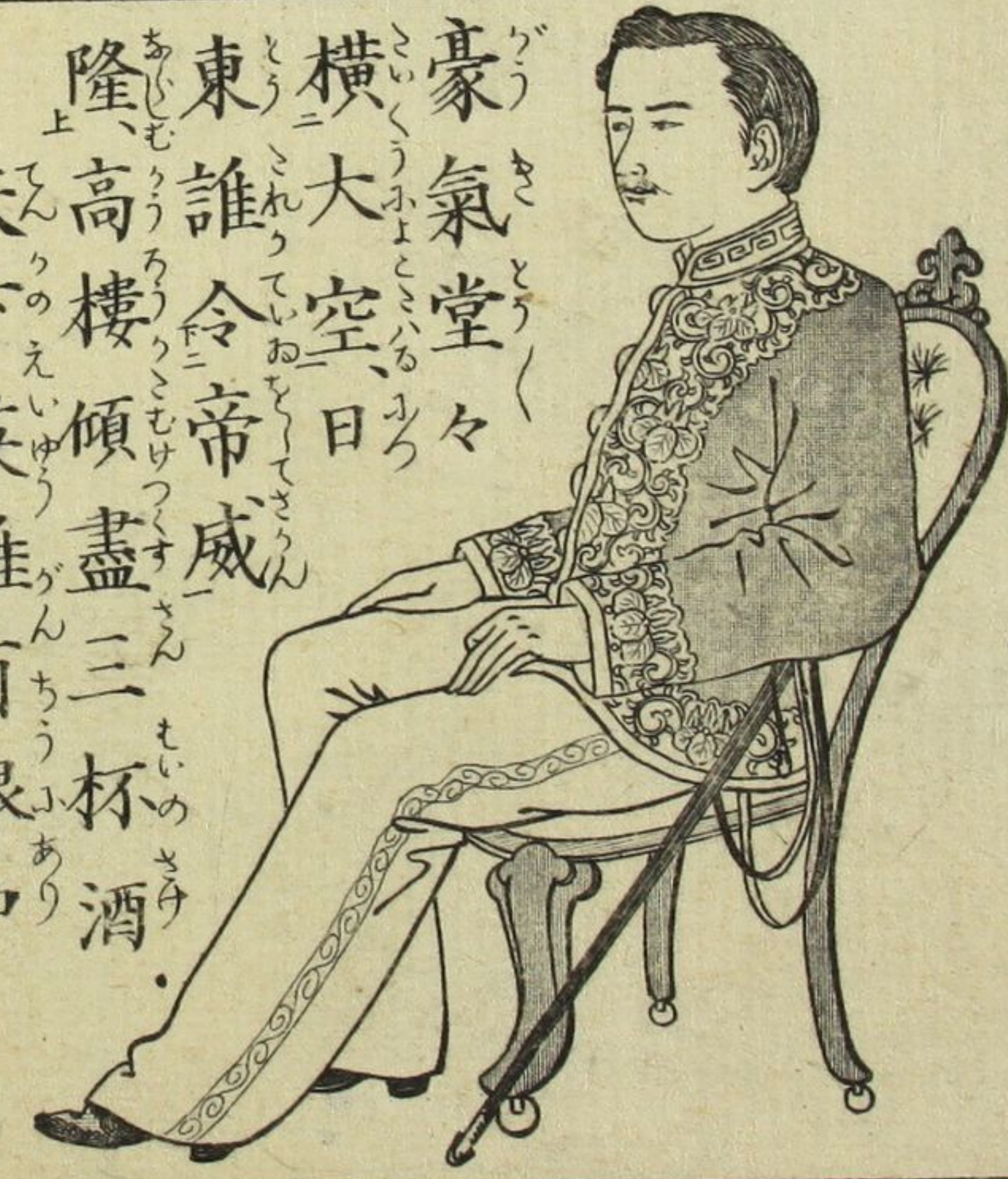


上國治
 安策已
 定猶聞閑
 左羽書馳除
 日探梅若王
 寺笑對臘中
 春一枝

卿ハ通稱を俊介とし、旧萩の藩士也。賦性穎敏、小して果斷あり、素より勤王の志あり。朝家の為め、尽力少かり。明治元年、兵庫縣令、小拜せられ、四年、大久保、木戸諸卿と副使となり、岩倉大使と俱小。歐米各國、小使、後参議、小して工部卿、賞勳局長、官法制局長官を兼られ、より十一年、大久保内務卿、薨せらる。依て内務卿となり、十三年、二月、内閣分離の時、專任参議とある。

氏ハ旧佐賀の藩士、小して所謂佐賀三平の一人あり。性活発、果敢、常小英才を以て称せらる。維新の後、歴任して五年、司法卿、小拜せられ、六年、参議、小任せらる。時、小征韓の論起り、其論の合ざるより、決然職を辞し、故山、小帰る。七年、二月、島義勇等と、壯兵を募り、縣廳を襲ひ、熊本鎮台兵と戦ふ。既、小して敗績し、高知縣下田の浦、小して縛せられ、后佐賀小於て梟首の刑、小処せらる。

参議伊藤博文卿



豪氣堂々
 横大空日
 東誰令帝威
 隆高樓傾盡三杯酒
 天下英雄有眼中

故司法卿江藤新平



大丈夫
 故山
 島義勇等
 熊本鎮台
 高知縣下田
 梟首の刑

卿ハ旧鹿見島藩の士也少壯
 小して西郷隆盛等と共小國
 事小尽カシ維新の際參謀と
 あり東羽小戦ひ又殘賊を蝦
 夷小伐て之を平らぐ後歴官
 して參議兼開拓使長官陸軍
 中將より明治八年特命辦理
 大使とあり朝鮮小使は十年
 九州乱る乃ち勅使柳原前光
 卿の護衛として鹿見島小到
 り野事を処分し後參謀と
 り海路入代小進ミ連戦皆捷
 ち終小之を平定せ

參議黑田清隆卿



日暮天寒
 風雪飛尺
 簾寸笠到柴扉
 數聲夜犬送吾
 去似向芙蓉山畔歸

卿ハ旧山口藩士也為人精悍
 小して智略あり最も軍師小
 通び曾て山縣高杉等と俱小
 正義を立て藩論を一定して
 幕兵小抗し屢々偉功あり王
 政維新の時越後口の參謀と
 かり奥羽不逞の徒を討つ又
 軍務長とかり諸隊を率東
 台屯集の章義隊を破る功を
 以て従四位小叙せられ兵部
 大輔小拜せらる明治二年十
 一月兇徒の為め京師の旅館
 小傷せられ尋で卒せ

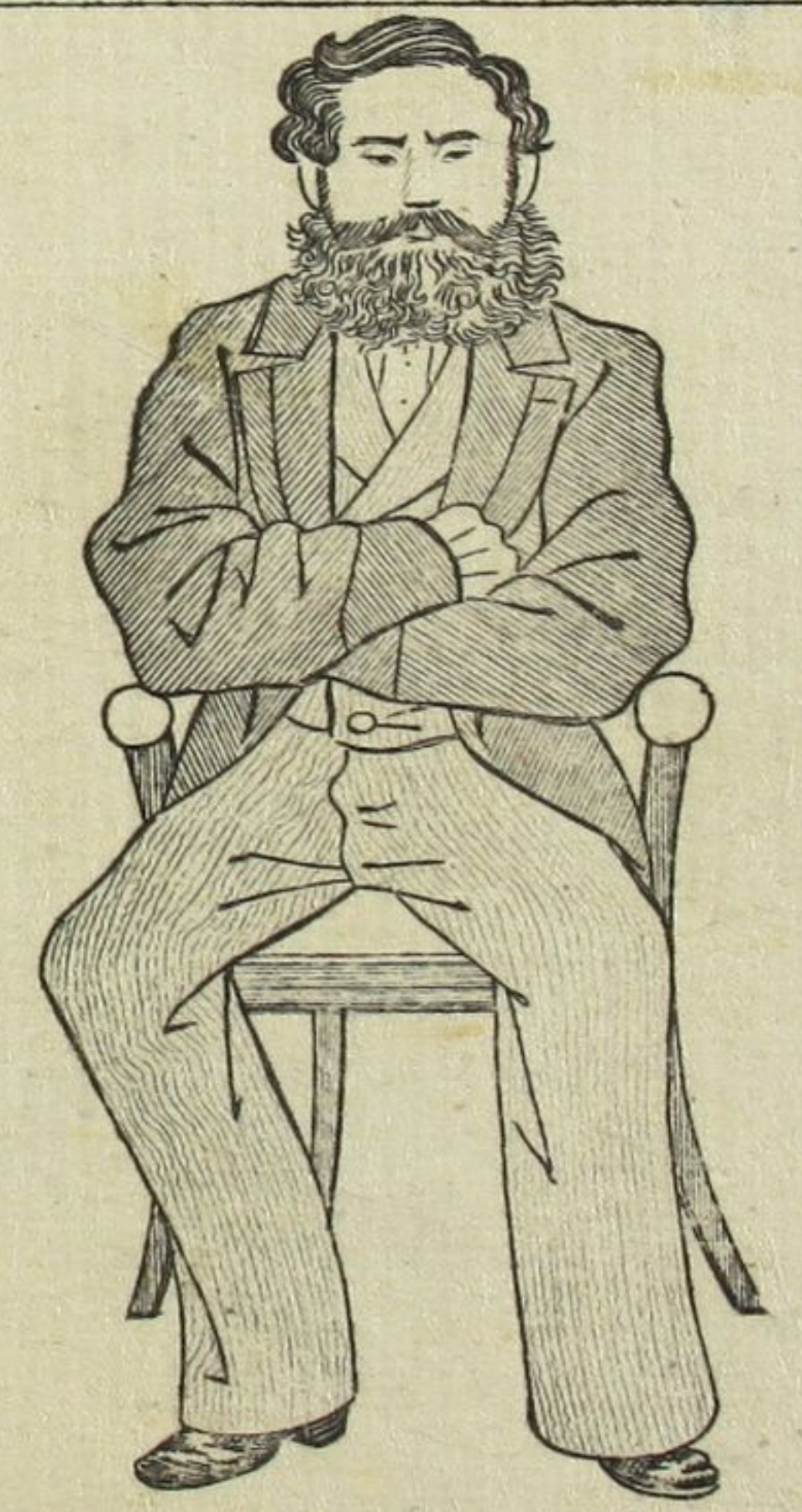
故兵部大輔大村益次郎卿
 智勇兼備の良
 將小一て



一旦兇
 徒の手小斃
 る國家の為め惜ま
 ざるを得ば

卿ハ西郷隆盛の弟かり幼小
 して兵書小通じ報國の志し
 最も厚く艱難辛苦して戊辰
 の役其功少かりは復古の
 後朝命小依り山縣有朋卿と
 英國小游学し帰朝して陸軍
 中将小拜せらるる七年三月台
 湾問罪の時事務都督とあり
 九年米國博覽會副總裁を命
 ぜられて彼地小至り十一年
 参議兼文部卿とあり又陸軍
 卿小轉じ十三年二月内閣分
 離の時参議專任とある

参議西郷從道卿



臥枕美人膝
 覺握兵馬權

氏ハ陸州の人幼名を中村半
 次郎といふ天資豪邁かり維
 新の際總督宮東下の節先鋒
 を命ぜられ直小江戸小入り
 後奥州小出陣し屢々戦功あ
 り平定の後祿二百石を賜ふ
 尋て陸軍少將小任せられ程
 なく熊本鎮台司令長官とか
 り又陸軍裁判長小遷る征韓
 論の起るや西郷隆盛と同論
 かるを以て無二の黨とあり
 竟小兵を率て官兵小抗し十
 年九月岩崎谷小敗死す

故陸軍少將桐野利秋



相の
 あらゆる
 秋茂
 ありて
 ありて

卿ハ薩州鹿兒島の旧藩士也
 幼小して兵学小志尤も海
 軍の術小長び維新の際西郷
 隆盛と共に小参謀とかり東海
 道を下り東北の賊を伐ち大
 ひ小功あり后諸官を経海軍
 中将小任せられて同大輔と
 り西南の役山縣黒田等と俱
 小参軍小拜せられ總督官を
 佐け戡定の功を奏し依て勲
 一等旭日大綬章を賜ふ十一
 年参議兼海軍卿小任せられ
 十三年参議專任とかる

参議川村純義卿



維新之
 明治功臣

良弼

氏ハ旧豊前の國中津奥平家
 の國老より幼小して文学を
 能くし圍碁等小長び后ち故
 ありて中津藩を脱し秋藩毛
 利家小仕ふ復古の日屢々偉
 功あり平定の後佐土藩の参
 事小拜せらる思ふ所ありて
 程なく職を辞し縣地小販り
 前原一誠と深く交り九年十
 月共小叛を謀り大ひ小成は
 所あらんとせしが衆寡敵せ
 ば遂小捕へられ前原等と俱
 小斬せらる

秋賊魁奥平謙輔

一人之敵
 何須足記
 姓名



書又
 迂太
 愛姦雄
 曹孟德
 帷中不睡
 註孫吳

卿ハ山口縣の人也其性温順
 小して学漢洋小涉り殊小経
 済の術小通じ財政を理ける
 小妙を得大政維新の後徴さ
 れて大蔵大輔たりしが故あ
 つて一旦辞職し程なく元老
 院議官小拜せられ公命小依
 り英國小官遊於十一年五月
 急小帰朝を命ぜられ同七月
 参議兼工部卿小任せられ同
 八月北越の巡幸小供奉し十
 二年参議小して外務卿の兼
 任を命ぜらる



氏ハ旧薩藩の士小して擊劔
 の名人かり曾て島津和泉の
 命を受け有馬新七等を鎮撫
 せし末力を國事小竭し維新
 の日参謀とかり奥羽征討小
 出陣せり鎮定の後鹿兒島縣
 令小拜せられ従五位小叙せ
 らる西郷隆盛乱を九州小起
 りや逆意を賛け專使を沿道
 各縣小派し資糧を給するを
 以て東京小徴され又長崎小
 送られ乱定る北日同野小於
 て斬首せらる



郷ハ通称を金次郎といひ徳川旗下の士也維新前幕命を以て和蘭小留学し海陸軍の術を研究し帰朝して幕府小仕ふ徳川慶喜公政権を返還するの際脱兵を率ゐ品海より汽船小搭し箱館小至りて官兵小抗はるを數閱月然れ共衆寡敵せば遂小降る右ち朝廷召して海軍中将小任は六七年の交露國特命全權公使小拜せられ十三年二月内閣分離の時海軍卿小任は

海軍卿榎本武揚卿



七重濱
 接五稜城、耳熟
 朝々喇叭聲一夜松杉
 林外雨懐來感往到天明

氏ハ通称を團右衛門といふ佐賀の藩士小して有名の人かり維新以來諸官を経て開拓の判官小拜せられ又大学の少監より明治六年征韓の論行ハれざるを憤り江藤新平と俱小故山小帰り翌七年新平等と兵を起し佐賀縣廳を襲ひ兵力を以て其汚論を遂んと台兵と戦ふと數次遂小高知縣下小走るのち縛せられ佐賀小於て江藤と共小梟首せらる

従四位島義勇

水晶盤裏錦波流



一帯飛橋
 十里浮萬艘櫓聲霞
 外動五洲山色望中收

卿ハ尾州藩の士小して國學の博士たり王政維新前旧藩主徳川慶勝公の命を受け朝家の為め尽力を盡し甚かのらび慶應三年召されて參與とあり明治元年辦事小拜せらる官文部省を創立せらるる時卿を以て文部大輔とあり以來教育普及の方法小意を注ぎ東京女子師範学校幼稚園等を設立せらる十一年議定官を兼ね十三年内閣分離の時司法卿小轉せらる

おろ下
 海
 多
 小
 不
 司
 司法卿田中不二磨卿

氏ハ薩州鹿児島の人小して名を常光といふ才略あり勤王家小して屢々長州小往來周旋するを少ふらば明治元年王政維新以来諸官を経て宮内大丞小拜せらる同四年岩倉全権大使歐米各國へ巡行の時隨行し乞ふて歐州小留ると數年かりしが西郷隆盛冠を掛け故山小飯ると聞き帰朝して西郷の逆意小與し一隊の將とかり遂小九月岩崎谷小て戦死せり

故宮内大丞村田新八
 決心偏欲開
 却以
 浅謀
 逢躓
 踏呼
 桃紅
 李
 白
 自然色
 任人評

卿ハ水戸黄門齊昭公の子にして文武の才幹あり將軍家茂公の後見職とかり幕府を輔佐し又禁裡守衛海防禦總督を命ぜらる慶應二年家定薨び卿遂に宗家を継ぎ征夷將軍内大臣たり三年十月天下の形勢を察し其職を辞し明治元年召不應じ入京するの途先鋒京軍と戦ふ王師其罪を申し来討つ卿恭順城を致し寛永寺小墾居し後ち静岡小移り住む



前將軍徳川慶喜卿

其の幼少の節より
 其の幼少の節より
 其の幼少の節より

卿ハ名を豊信といふ旧土州高知の藩主にして幕政の時少將たり嘉永以來外夷の跋扈を憤はり數々献議を時小井伊大老の幽ゆる處とある後益々國事不尽力し天下薩長と並べ称して勤王の三藩といふ慶應の末年書を幕府小上つり其政權を奉還せんを勧む維新の日議定より後學校知事となり又中納言小拜せらる明治五年六月東京小於て薨び



旧高知藩主山内容堂卿

其の幼少の節より
 其の幼少の節より
 其の幼少の節より

卿ハ故薩摩守齊興の第二子
 前鹿兒島藩知事忠義公の父
 かり其性文を好み又よく武
 小通は維新前より國家の為
 め功勞鮮かりらば明治二年
 勤王の勲功を賞し十萬石を
 賜ふ三年上京し幾く程もか
 く藩小飯る七年左大臣小拜
 せらるる参朝して大ひ小意見
 を陳べ後ち官を辞し九年宿
 痾療養の爲め薩州櫻島の温
 泉場小赴き今尚は風月を樂
 んで老身を養へり



卿ハ旧肥前佐賀の藩主小し
 て名を齊正といふ性剛直小
 して文武の才略あり嘉永以
 来國事小憂勞し屢々攘夷の
 策を幕府小建に幕府用ひる
 能ハば尋て文武給裁職とか
 る明治元年議定より後ち大
 納言小遷る時小薩長肥後の
 三藩主と共小封土奉還の議
 を上つる同四年正月薨に副
 島種臣江藤新平大木喬任大
 隈重信等の頭官小採用せり
 る、ハ卿の薰陶小出づと云



卿ハ初め名を慶恕といひ旧尾州名古屋の藩主にして大納言より春嶽公と共に一橋慶喜卿を將軍と立んとし井伊直弼公の幽ゆる処とある萬延元年長州追討総督となり西にて藝州に次り其罪を問ふ明年再び追討の師起る上書して其不可を論げ大政一新の日議定より時藩内佐幕の黨起る其巨魁廿余人を罰し方向を定む后従一位不叙せられ鷹野香間祇候より

福井藩主にして幕府執政の日中将より將軍家定薨るる際一橋慶喜卿を將軍と立てんと謀り井伊老中の幽する処とある後政事総裁職とかり幕府を補佐し其勤勞を辭し大坂を下るや慶勝卿と共に詔を奉じて之を召す復古の日議定とあり歴官して大學別當兼侍讀不拜せられ今鷹野香間祇候より

旧名古屋藩主徳川慶勝卿



あつたあへあま
あつたあへあま
あつたあへあま
あつたあへあま
あつたあへあま

福井藩主松平春嶽卿



あつたあへあま
あつたあへあま
あつたあへあま
あつたあへあま
あつたあへあま

卿ハ旧土州藩の士也人とか
 り正直小して才幹あり王政
 復古の際召れて參與とかり
 又参謀とかりて奥羽を征討
 し遂に平定の功を奏せり后
 高知藩権大参事とかりしが
 幾むくもかく参議小拜せら
 る七年江藤副島後藤諸氏と
 民撰議院設立の議を上つる
 后ち縣地小飯り愛國社を立
 て其長とかり民権を振起せ
 るを以て己が任とかり當時
 其社負二万餘人といふ

卿ハ通称を以て呼ば旧佐
 賀藩の人也天性英才宏度学
 古今を兼ね議論確証先人を
 凌壓し維新以後歴官して参
 議兼外務卿小拜せられ特命
 全權大使とかり清國小使し
 て台湾事件を談判し后ち致
 仕して清國小遊び李鴻章等
 と文墨を以て交り清人頗る
 其才藻小服いといふ十二年
 召されて宮内省御用掛とか
 る其維新前後の功勞ハ短紙
 の能く竭れ処小あらび

前参議板垣退助卿



出師
 未
 曾汚天兵
 一死只期
 竹島名彈
 子飛行乱
 如雨喜見
 壯士躍登城

前参議副島種臣卿



噴身
 世未
 全閑通州
 夜雨蓬窓夢
 重謁清皇尺
 尺間

卿ハ高知縣の士族也元燁と
 号シ容堂卿服心の臣とあり曾
 て容堂卿の命を受け大政を
 奉還レ可きとを徳川慶喜卿
 小説き王政復古の時參與と
 あり明治二年参議小遷る四
 年工部卿小任せられ幾く程
 もかく左院議長小拜せらる
 の後ち板垣江藤諸氏と民撰議
 院設立の議を献白レ尔未肥
 前高島の石炭坑開鑿の業小
 従グひ國家不益すると莫大
 かりといふ

前参議後藤象次郎卿
 天下大権歸
 王室
 昔年
 霸業一
 朝空國是
 全定是誰力收
 在書生一筆中



卿ハ鹿児島の人博學通ぜざ
 るを殊ニ兵學ヲ精シ維新
 比日一隊ヲ將トシテ長の隊
 長山田顕義卿と共ニ伏見ハ
 在リ寡兵を以テ関東の大兵
 不當リ激戰數次遂ニ之を敗
 る又参謀とあり東北の乱賊
 を討テ之を平ラグ爾來諸官
 を歴テ左院議長とあり侍讀
 を兼ね后ち職を辞して故山
 小飯る十二年召されて宮内
 省御用掛りとあり新宿博物
 御園の長官とあり

前参議伊知地正治卿
 月下漁翁鋪草筵
 洲繫駐二三
 鳥片鷗
 平沙
 岸曲浦迢
 遙垂柳前



卿ハ幕府の人通称を麟太郎
 といふ安政年中幕命を以て
 矢田堀景藏氏と共ニ操船の
 術を長崎ノ学ガ後海軍奉行
 とあり安房守ノ任也又歐州
 小使セリトあり維新の日王
 師の関東小臨むや卿出て参
 謀西郷隆盛小品川小面し具
 小慶喜卿恭頌謝罪の旨を陳
 べ征討の師を罷しむ後ち徴
 されて海軍省二等出仕小補
 せられ参議兼海軍卿小遷る
 幾くも亦く其職を辞せり

前海軍卿勝
 安芳卿



人乃ん此
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は

卿ハ初め三國八郎といふ越
 前の人小して旧福井藩の士
 あり天性伶俐ありて品行尤
 も端正あり時小安政年間尊
 攘の説おこり人々恟々たる
 の日小際し旧藩主松平春嶽
 卿の命を受け徳川家の為め
 策を建ると多く維新の日召
 されて參與となり后東京府
 知事小轉ト元老院議官小遷
 る幾バくも亦く官を辞し鑛
 山開鑿の業小随ひ當時富巨
 萬小至るといふ

前議官由利公正卿



其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は
 其は

卿ハ村上源氏三位通岑卿の
 子にして孝明天皇の朝少
 将となり癸丑以來三條実美卿
 等と俱朝家の為め尽力に
 ると少ありりば又三條四條
 錦小路澤三條西岩倉卿と長
 州不脱走王政復古の際徴
 されて外國事務總裁とあり
 兵庫裁判を兼ね後不開拓使
 長官不拜せりれ明治二年詔
 を奉じて西州不使以後侍
 従長とあり今正二位あして
 元老院議官とあり



卿ハ薩州の人旧称を佐次衛
 門といふ稟性剛邁あして博
 く和漢の学不渉る維新前よ
 り朝家の為め心を竭つて尤
 も多く大政復古の時西郷隆
 盛大久保利通二氏と共に召
 されて參與とあり献替はる
 所少ありりば后ち留守長官
 とあり幾く程もあく職を辞
 して泉州堺不住し茶園を開
 きて朱門を避け風月を樂こ
 しが又明治十一年六月元老
 院議官不拜せられり



卿ハ東京の人あり稟性濃厚
おして和漢の書不達し殊不
経済不通始々右近将監と
いふ大監察使とあり後長崎
奉行不遷り越中守不任比明
治元年王師東下し江戸城下
不於て大い不事あらんと後
る不際し勝安芳卿と共不先
鋒参謀不面し慶喜卿恭順の
旨を述べ兵を罷めしむ同五
年東京府知事不任じ同九年
教部少輔不轉じ十年元老院
議官不拜せり

議官大久保一公翁卿



のみり
あはれ
の
あけ
み
あ
あ
あ
あ

卿ハ旧鹿見島藩士鯨島順玄
の次子あり天性温和敦厚不
して学問を好み十五歳のと
き石川確太郎氏不就き蘭学
を修め翌年造士館の助教と
あり十九の春寺島其外五氏
と藩候の内命を受け英國不
留学し二十六歳の時帰朝於
明治元年外國官判事不任せ
られ后ち特命全權公使とあ
り佛國不赴く十三年享年三
十六歳おして任所巴里公使
館不於て病死せり

天卿
お今
数年
を假
し
めバ國
家の為
めお大い
盡はる處
惜ひ哉
故全權公使鯨島尚信卿



卿ハ前中納言光愛卿の子にして先帝の朝不侍従より大政維新の日橋本実梁卿と共に先鋒總督となり兵を率ゐて東下に平定の後諸官を経て明治四年外務大丞を以て遣唐副使となり支那不使の後全權公使不拜せられ清國不駐劄を在るに数年十年九州大ひに乱る乃ち勅使となり鹿見島不到り島津父子を召し今元老院幹事不して露國特命全權公使となり

卿ハ薩州鹿見島縣の士族也天性惻愍幼少して和漢の書不螢雪の効を積み歳十八にして旧藩主不抜擢され寺島森鮫島五代町田の五氏と共に英國不留学するに三年明治元年米國不留学し同ドク四年帰朝して租稅權助不拜せられ後大藏少輔不轉じ同五年理事官を以て米國不使に七年特命全權公使不拜せられ合衆國不駐在し十二年帰朝して復任不赴きぬ

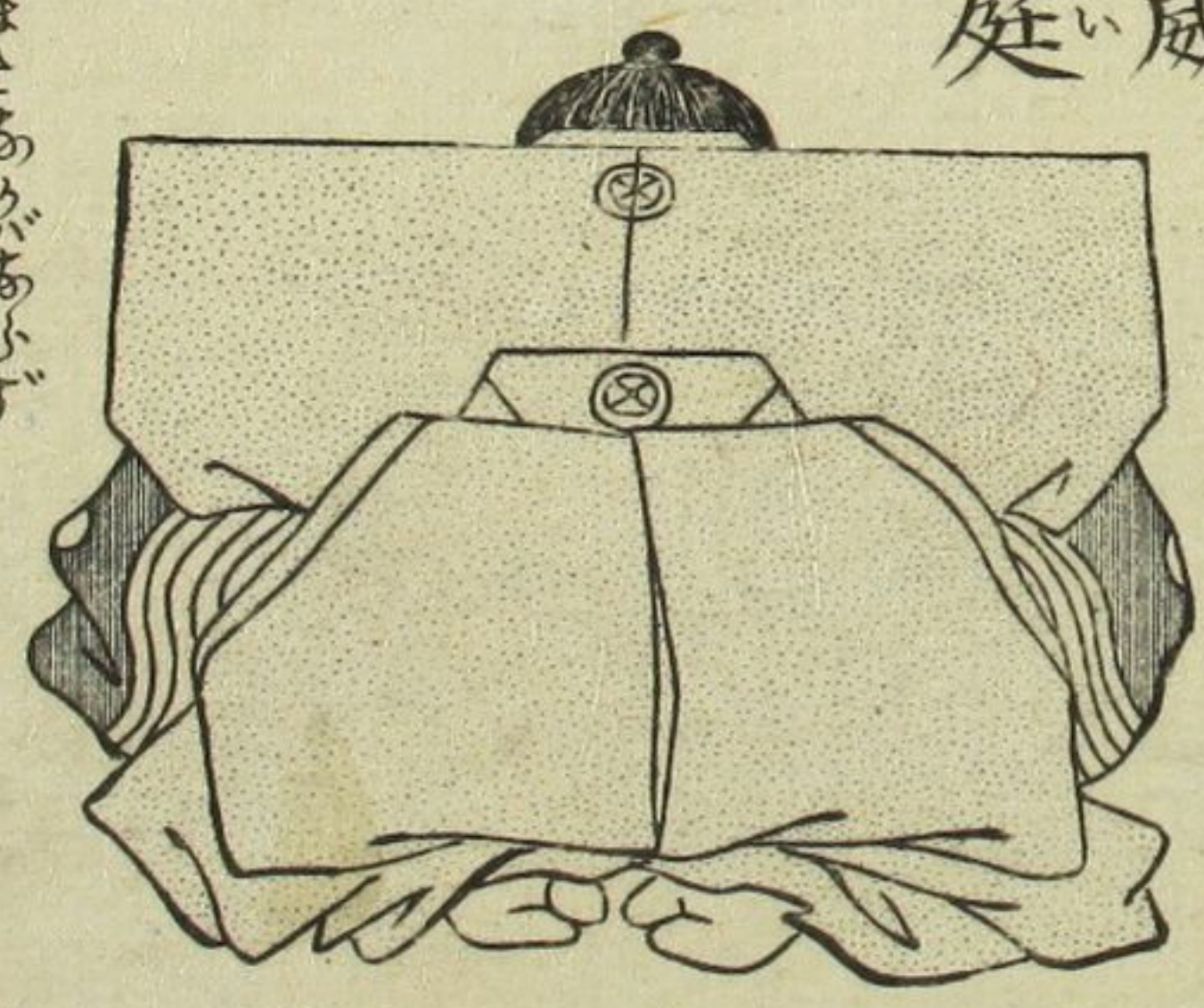
全權公使柳原前光卿



無復飛書人甲関
 穩眠茶
 竈筆
 林間
 八千餘丈芙蓉
 雪即是欄前小假山

全權公使吉田清成卿
田勤の圖ハ

簾外風威
 早報陽庭
 前又是
 有芬香
 一枝梅
 却陪千
 樹可愛
 人間樂未央



卿ハ孝明天皇の朝ハ主水正
 たり嘉永癸丑以來尊王攘夷
 の説盛行ハ天下の人心
 恟々たる不當り大ハ不國事
 不盡カシ又三條実美卿等と
 俱ハ長州ハ走る明治元年王
 政復古の際參與とあり又會
 津征討の督將とあり秋田ハ
 あり備さハ艱苦を嘗め遂ハ
 戡定の効を奏シ爾來經官シ
 て外務卿ハ任じ六年特命全
 權公使ハ拜せられ癸卯シ
 て薨じ正三位を贈りる



卿ハ旧熊本藩主細川護久公
 の弟ハして通稱を良之助と
 いひ曾て賢才を以て称せり
 慶應年間数々京師ハ朝シ
 國事ハ尽力シ又其季年ハ令
 皇ある大藩五諸侯を召さる
 るや卿ハ亦其選ハ中れりと
 王政一新の後歐洲ハ遊学シ
 るに数年諸学科を研究して
 返る十二年華族ハ列せられ
 麁香の間祇候ハ命せりる十
 三年特命全權公使ハ拜せら
 れ五月任所へ赴りる



卿ハ二品伏見邦家親王の子
 不して仁孝天皇の御養子と
 り始め仁和寺宮と称し二品
 不叙せらる明治元年征東将
 軍不拜せられ越後口より進
 討し遂不之を戡定以後欧洲
 不留学はる多不年不帰
 朝は七年佐賀の乱亦征討總
 督不拜せられ往て之を平ら
 く十年西南の役陸軍少将を
 以て出戦し平定の功を奏せ
 り十三年同中将不拜せられ
 近衛都督不任せらる



氏ノ肥後熊本の回藩士あり
 其性剛勇不して膽力あり学
 和漢不涉り兼て砲術に通ず
 維新前後屢々功あり後不
 同藩の参事とありしが辞し
 て鹿児島不遊び又熊本不飯
 り明治五年の頃島津久光公
 不隨ひ上京せしが帰縣して
 一の学校を設け生徒を教育
 しけるが松浦新吉郎山崎定
 平等と謀り西郷隆盛不應援
 し官兵不抗する科不依り斬
 首の刑不処せられたり



卿ハ鹿兒島の士通稱を金之丞と呼び幼少して英敏あり
 元治元年旧藩主の命を受け
 寺島較島吉田五代町田の五
 氏と共に英國に遊学するに
 数年維新の際帰朝して議事
 体裁取調掛を命ぜらる時不
 卿脱刀の議案を出以明治八
 年全權公使に拜せられて清
 國に駐在し十年帰朝して外
 務大輔に轉じ十三年亦英國
 特命全權公使となり同二月
 倫敦に解纜せりと云ふ

全權公使森有禮卿



満開高幹萬
 枝紅日霽光
 暉散室中六月
 旬々花未謝白
 雲帶處似江虹

氏ハ旧會津の藩士也初め名
 を敬次郎といふ大政維新の
 后斗南藩の参事たりしが
 幾く程もなく職を辞して東
 京に來り湯島天神下小舎
 を設け學生を教授せし不飲
 酒の爲め人望を失し遂に閑
 舎せり後萩の前原一誠等の
 逆意に與し千葉縣廳を襲ひ
 声援を乞ふさんと約し九年十
 月某日錦の見世開の電報を
 得同縣へ赴りんとし小網町
 にて縛せられ斬せらる

永岡久茂



謀叛を企て
 臭名を千歳
 不流に豈
 慎ま
 ざる

卿ハ土州の人初の名を守部
 といふ曾て江戸不来り安井
 息軒翁の門に入り漢
 書を研究以維新
 前旧藩主の
 命を受け献替する所多く明
 治元年大軍監となり所々不
 轉戦して偉功を奏せり後陸
 軍少将小并せられ佐賀の乱
 台湾の役皆與りて力あり十
 年薩賊起る卿熊本在り五
 十餘旬籠城おし賊をして上
 京不志しを得しめざる卿カ也と



陸軍中将谷干城卿



與君同排
 龜山雲與
 君同拂熊城
 氛龜山熊城君休
 說生者勲不知死者勲

氏ハ長門秋の士族小して前
 の兵部大輔前原一誠の弟か
 り維新の後陸軍少佐小并せ
 られ熊本鎮臺歩兵第十四聯
 隊の長となり明治八年十二月
 俄小辞職して帰縣かし家兄
 の逆意を賛成し九年九月家
 兄及び奥平謙輔等と百餘人
 を嘯集し官軍小抗す穎太郎
 等毎戦利なく一漁船小搭し
 其地を去りしが遂小雲州宇
 龍港小於て捕縛せられ後ち
 斬首の刑小処せられり

故陸軍少佐山田穎太郎
 皇道衰残亡國
 風清姦策破事
 為空精
 神遊散
 兩間
 裏斷首當
 年表忠魂



卿ハ前大納言隆生卿の子小
 して先帝の朝少将たり癸
 丑以来國事小憂勞れるを勉
 かりらび又三條其他諸卿と
 長州小走る戊辰の役軍事參
 謀とかり兵を率ゐて關東小
 下る復古の後陸軍少将小拜
 せらる四年山口藩脱隊の者
 九州路不出没し暴行小及ぶ
 を以て日田縣小出張し諸藩
 の指揮を委任せらる賊黨尋
 小平定は十四年二月中将小
 拜し議官を兼ねらる

陸軍中將四條隆訶卿



卿ハ旧名を正之進といふ鹿
 児島縣の士族あり維新の役
 卒族の隊長とあり諸野小戰
 功あり就中新浮長岡會津の
 三戰小最も功あり明治四年
 徴されて東京府大属小任せ
 られ五年大警視とあり其冬
 欧米各國小航し人民保護の
 方法を調査し既て之を府下
 小行ふ十年陸軍少将小兼任
 し叛賊征討小尽力し十二年
 再び歐洲小航し帰航中病を
 得歸りて家小死は

故大警視川路利良卿



嗚呼偉哉府
 下百萬之
 人衆
 得
 高
 枕
 安眠職
 依君能盡任
 嗚呼偉哉

公ハ元尼ヶ崎家の子あり
 曾て練兵の術も江川氏小
 び其術小長びる小及で幕府
 の臣とある王政復古の日幕
 府の傳習隊を率ゐる官軍
 を敗る既小して榎本等と共
 小函館小走り尚官兵小抗れ
 ると数ヶ月然れ共衆寡敵せ
 ば榎本等と俱小軍門小降る
 后徴されて開拓陸軍等の諸
 官を經今從五位工部大書記
 官小して本年の内國勸業博
 覽會の審査官たり

氏ハ鹿兒島の士幼名を萬齊
 といふ旧藩の時茶道を勤め
 たり其性剛邁小して擊劔を
 善く大政復古の際大ひ小
 功あり后ち諸官を經て陸軍
 少佐小拜せられたり官屯田
 兵を北海道小設る小當り開
 拓使大主典小兼任し北海道
 小赴き屯田兵の長とかれり六
 七年の交辭職して縣小歸り
 桐野等の勸小依り西郷の暴
 挙小與せしが其敵に可うら
 ざるを悟り遂小割腹せり

水陸三千共進兵
 兩軍今日決輸
 贏上丘
 一望
 敵方
 近
 觸袖飛
 丸憂有聲



工部大書記官大鳥圭介公

故陸軍少佐永山彌一
 氏何の見る處ありて
 暴挙小與せり
 百方勘考
 すれ
 ども其主旨
 を得る小苦る一む



公ハ但馬出石の郷士なり初
 柴捨三と呼ぶ維新前沢主
 水正の幾野銀山の義奉小與
 後脱して長州小走る戊辰
 の乱同藩の兵を卒めて征幕
 の役小参し明治中興の初彈
 正臺大巡察小拔擢され尋で
 開拓判官小轉ば后冠を掛け
 て故園小遊ばれしが又熊本
 縣大書記官小任せられ程か
 く内務少書記官小轉じ十三
 年高知縣令小遷り十四年京
 都府知事小拜せられたり

公知事小
 任せり
 府民小向
 て良牧吏を
 得たるを祝賀
 京都府知事
 北垣國道公



君ハ肥前の國島原の人なり
 学識智略衆小秀で且つ大ひ
 小武術小達し明治維新の後
 外務大丞小拜せらるる二年八
 月魯人久春古丹小據り暴行
 す時小君柯太小赴き大ひ小
 処分れる所あり後ち不良を
 企て乱を山口小起し幾バク
 もふく縛せられて終身禁錮
 とかる同十三年特典を以て
 放免せらるる當時忘吾會を設
 け民権を主張する黨与を挫
 りんとすといふ



獅子席を
 前外務大丞丸山作樂君
 持小
 奈さん
 きんぽひ
 手
 送
 送
 送

公ハ尚中翁の長子あり明治元年獨乙國小苗學に醫學大ひ小進ミ策門甲科最上級小上り博士の稱譽を得て同八年帰朝し順天堂病院を建て父子心を協せ力を同ふし大ひ小治術を施し普く世人を救はんとい疾小罹る者未て診断を乞ふ者陸続絶えざといふ十年西南の乱公陸軍軍医監小拜せられ大坂病院の長とされり平定の後勲四等小叙せられり

氏ハ長州萩の士族小して前原一誠の従弟あり其性剛勇小して擊劔を克く明治九年九月前原等暴卒の時與平謙輔横山俊彦等と各所小轉戦せしが軍破るの後逃れ鹿兒島小投一窈小桐野利秋小依り私学校小入る十年西郷等の逆意小與し桐野篠原等と俱小諸隊を指揮し数々勇を顯せ一が遂小肥後の國川尻小於て非常の働をかし討死しりける

輪如
鏡満
清川
雲影茫茫
収淡煙現見墨田
中流趣心融神會意
悠然
軍醫監佐藤進公

前原一格
寒樹深裡積雪中
浮香獨自
發奇工
疎枝折取非意
無林前為欲補
春融

君ハ上州血洗島村の人あり
 天性活潑大度曾て清水民部
 大輔小隨て仏國小赴き大
 小得る処あり明治三年一商
 店を横濱小開き駿河屋とい
 ふ后徴されて大藏省大丞小
 拜せられ進んで同省三等出
 仕小補せらる故あり同大輔
 井上君と共に小辞職かし第一
 銀行の頭取となり紙幣の取
 引米穀の賣買等小於て神算
 を極めざるを以て俄頃小し
 て富数万圓小至るといふ

第一銀行頭取波澤榮一君



幽窓書
 室外山雨半
 空中蕉葉翻々
 響知三應動夜風

君ハ初め江幡八郎と稱れ旧
 盛岡藩の士なり人と為り温
 厚平和常小忠孝義節を重し
 人と談して此事小及べハ必
 び歎歎流涕いと知若小して
 江戸小来り又諸國を遊歴し
 明治六年大藏省小出仕し尋
 で文部省小轉じ編書の事小
 従ふ十三年八月某日友人と
 對酌款談中遽小倒れて終小
 起り享年五十三君博學小し
 て強記著書頗る多しと雖も
 未だ梓小上らばといふ

那珂通高君



あはれ
 をな
 る
 あり
 ゆめなきの森
 ありあけ
 あり

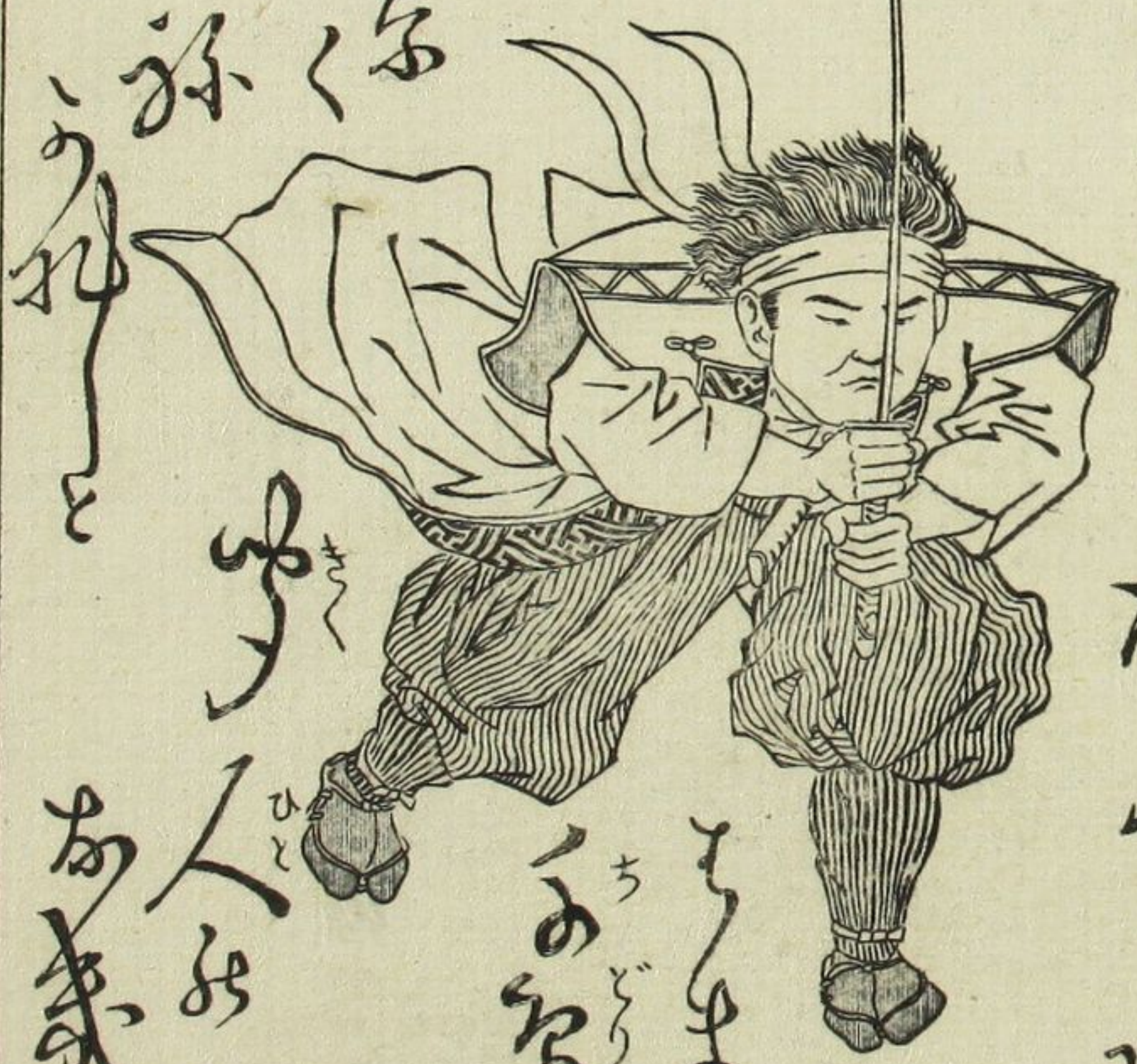
君ハ幕府の人にして号を敬
 宇といふ初め昇平黄不入り
 旁ハ大坪蓬洲不就洋学
 を修む後ち幕命を以て英京
 龍動不留学し其業大ひ不進
 む維新の後辞して官不就
 べ既而して女子師範学校の
 摂理を命せられ幼穉園を建
 てらる君譯はる処の書数種
 あり就中西国立志編むも世
 小行ハる曾て同人社を設け
 数百の書生を教授され今東
 京学士會院の會員なり

中村正直君
 蛭島流民嘗
 苦酸髻
 年
 質子
 忍飢寒
 二公霸業實基
 此後嗣失傳由宴安



氏ハ豊前の國中津の人なり
 幼小して和漢の書を学び后
 ち東京不來りて洋学を修め
 英國不留学はるを数年常不
 我國威の衰へんを憂へ懐
 慨止む時かく曾て鹿児島私
 学校の生徒と交り又同所不
 て出版の田舎新聞の編輯長
 とりしが遙不西郷等の逆意
 を援け中津暴挙の巨魁とな
 り縣廳を襲ひ一時縣下を騷
 擾せしが后ち縛不つき斬首
 の刑不処せられり

増田宗太郎
 末つひふめり
 孫く
 子
 人
 あり



翁ハ下総小見川の人初め寺
門靜軒不隨漢学を修め后
ち佐藤泰然不就洋書并小
医術を学ぶ又長崎不赴洋
医困百氏不就内外科の
術を修む藩不歸り献言して
病院を建つ此本邦病院の嚆
矢あり明治二年文部大丞兼
大典医小拜せらる七年辞し
て順天堂病院を湯島不建つ
其宏注官立の病院不譲らば
當今有名の岩佐佐々木等の
諸人皆其門不出びといふ

前大典醫佐藤尚中翁
爽氣開襟
天詩文
經歴
列
瓊筵此
中交得和漢
說別有和蘭書
一
篇



氏ハ旧高鍋の藩士あり初め
桃太郎と称れ幼小して安井
息軒の門小入り漢学を修む
戊辰の役東西小奔走して大
ひ小國事小尽刀以明治中興
の初め新泻判事小任せられ
幾バくもかく彈正少忠小轉
ト后開拓幹事小拜せられし
が官を辞して故山小飯り明
治十年鹿見島の賊魁西郷等
の逆意小與旧高鍋の藩士
を煽動せしが遂小捕縛され
斬首の刑不処せられとり

坂田諸潔
あはれ
あはれ
あはれ



あはれ
あはれ
あはれ

君ハ元長崎の人天性穎敏不
 して強記あり壯年江戸小未
 り蘭書を学び兼て英佛の書
 小通じ明治元年江湖新聞を
 編輯し后ち大藏省小出仕し
 理事官を以て伊藤博文芳川
 顕正の二君と米國小航以四
 年岩倉大使小隨ひ欧米各國
 巡回の途辞して帰朝し東京
 日々新聞の社長とある十二
 年東京府會を開く小際し議
 員等君を推して議長とあり
 頗る其任小称ふといふ

日報社福地源一郎君
 秋蘆抽白擁漁家



太似漁翁衰髮華昨
 夜扁舟月明裡灣々
 看雪不看花

女史ハ摂州西成郡の人名を
 滝野といふ花蹊ハ号あり天
 質明慧不して書画を好み四
 歳の時既小神童の聞えあり
 女史西京不在ると数年維新
 の後専ら風流文学に従事し
 五年の春東京小来り八年の
 冬女学校を設け大ひ小生徒
 を集り和漢の典籍及び書画
 算数裁縫を教ふ其生徒数百
 人あり華族縉紳の女其半不
 過ぎ洋客の子女も亦其校不
 入るものありといふ


跡見花蹊女史



君の朱筆
 名は初計

翁ハ乾庵と号以幕医喜多村
 槐園翁の第三子あり初め安
 積良齊翁の門不遊び又昌平
 賞不入りて大ひ不勤学以年
 若くして函館不赴き病院医
 学所を建て居る五五年不し
 て江戸不飯り外國奉行不任
 ト若年寄格不進む仏國語学
 所を開き横須賀製鉄処を創
 むるハ皆翁の献議不出づと
 い小明治以来仕官せられた
 報知新聞の編輯人となり又
 本所の區會議長たり

報知社栗本鋤雲翁
 門巷蕭條夜色
 悲鳩鵲聲
 在月
 前枝
 誰憐孤
 燈短檠
 下白髮遺臣讀楚字



上人ハ姓を岳といひ又右竹
 と呼ぶ豊後日向郷竹田村の
 人にして真宗の上人あり曾
 て同國廣瀨炎窓翁不就漢
 学を修め詩文を学ぶ中年不
 いとり始めて画道不志して
 奥技不達其氣韻を見るも
 の驚膽拍掌せざるあし然れ
 ども意不適ハざれば数月間
 筆をとらばといふ世不逸雲
 鏡翁香雨と上人との四人を
 九州の四仙といひ其名天下
 不高し

僧五岳上人
 我年過五十一
 然情况稍蕭
 熟手
 畫事
 俗衰
 却詩圓



翁ハ旧幕府の臣也初め甲子
 太郎と称し世々儒を以て仕
 えとり慶應元年騎兵頭不拜
 せらる時子翁兵制を洋式に
 改む明治元年幕府瓦解の際
 大ひ小尽カシ献替するを少
 ありらば後ち辞して仕へば
 六七年の交改米各國を巡回
 し八年朝野新聞の社長とな
 る以末商法會議所扶桑商會
 等の役員となり大ひ小拮据
 し傍ら花月新誌を編し渥堤
 不閑居し風月を樂めり



翁ハ會津の人幼くして書を
 嗜し曾て長崎小遊び清客錢
 少虎等と筆法を論じ遂に清
 國へ航し遍く名家を訪ひ居
 るに二年にして東京へ還る
 名日小頭れ弟子益々進み曾
 て修齊廉節の四字を御覽不
 供し賚あり又宴を中村樓不
 開き席上鷲龍の二字を書け
 其字方一丈餘ありといふ又
 門弟殆んど二千人不及び惜
 哉明治十一年一月病んで東
 京へ死に年五十七



君ハ元豊前中津の人幼少し
 て倜儻大志あり漸く長びる
 不及んで大坂に遊び緒方洪
 庵の門に入り蘭書を学び居
 る事数年萬延元年軍鑑奉行
 柴田日向守に隨て米國に航
 し後幕府の使節に隨從し政
 州に赴き英仏蘭等の諸國を
 遊歴し飯て西洋事情を著し
 又慶應年間一塾を開き慶應
 義塾といふ普く学生を集め
 て教授し学成り業を卒る者
 多く今生徒五百餘人ありと

慶應義塾福澤諭吉君



青筠含
 露拂蒼空
 曉霧晴時聞早鴻
 柳葉飄々黃葉下
 水村山郭開秋風

君ハ越後新発田の人あり家
 世々商を以て業とあり君十
 八歳の時江戸に來り一小店
 を開き雜貨を商へり王政維
 新の後木町に西洋裁縫所を
 設くこれ本邦に洋服を製し
 るの初めとあり明治五年政
 洲に赴き物産の精巧貿易の
 実況を察し飯て大倉組を創
 立以後七年台湾の役十年西
 南の乱に大に糧糧の輜重
 に尽力し鎮定の功君與て力
 ありといふ

大倉喜八郎君



志々々々々々
 梅
 夕
 夕

君ハ旧幕府の臣にして前紙幣権頭須藤時一郎君の令弟あり稟性聰明にして漢洋の書不達以幕府の末路尽力少ありらば明治中興の後司法省少判事不任せられ幾程もあく元老院権大書記官不轉於十二年職を辞して東京横濱毎日新聞の社長とある又曾て政談演説の會を設く之を嚶鳴社といふ君の能辨おして聴衆を感ぜしむる能く人の知る処あり

毎日新聞沼間守一君
 夢清栖野鶴
 香潔脱塵梅
 骸骨
 始
 吾
 有
 宛然
 歸去來



君ハ東京の人別号を轉々堂といふ曾て画を波藍翁小學び又俳諧を善くし好んで小説を綴る曩ハ旧幕府お仕へ後ち退ひて閑居されしが明治六七年の頃日報社の社員とあり又日就社の記者となり小学雑誌を出版する十一年大坂新聞社の招不應じ同社の編輯人とありしが辞して東京お飯り十三年八月日就社長子安君の聘不應じ再び同社の印刷長とされり

讀賣新聞高島藍泉君

誰か眼みも



心分ハ
 誰か

君ハ作州國谷村の人幼名を太郎と稱し後ち銀次郎と改む曾て江戸小来り藤森弘庵先生の門不遊び内藤侯不仕へ上野別荘の番頭とある又米人ヘボン氏の英和辞書を編纂する君與て力あり元治年間一の新聞を始めしが故ありて廢止し明治七年日報社の聘不應じ編輯不從事今尚同社の負外社負とり君目葉精錡水を嚮ぐ其驗効ハ衆人の知る処あり

岸田吟香君
 大分氏
 海づつ
 せと
 松よを
 余乃山
 ちほるまめりふ



君ハ東京の人初め名を金三郎といふ歳十九三井組の奉行人とある後番頭齊藤純藏養て子とあし純藏と改む以米三井組の爲め不尽力すると尤も多く維新の後高法司の知事補不拜せられ尋で商社及開墾會社の起る不及び頭取を命ぜらる又商法會議所の議負とあられとり今年六十有餘おして同銀行の取締役不て検査掛を勤めらる君竹叟と号し書を好くす

齊藤純藏君
 親の
 あま
 の
 せ
 沙走ふれ



君ハ大分縣佐伯の人あり曾て笈を負ひ東京小来り三田慶應義塾小遊び多年力を盡雪小竭し学成り業卒る不及んで報知新聞社の記者となり八年旧酒田縣令の榮譽を害はる行事を掲載はる科小依り禁獄二ヶ月罰金二百圓の刑小処せらる出獄の後同社の主幹となり専ら自由民権の論説を記し又有志者と政談演説をなし数々談場小登り其主義を演ぜりると

名園芍薬高人菊亦是當年五



柳庄
季白桃紅
花過後獨看藍尾有
真芳

報知社上藤田茂吉君

女史ハ故の古河藩士某の女あり幼より慧秀凡あらゆる書史不通且つ画を能く喜んで山水を作る又曾て清人魏胎と贈答して丹青の神訣を論じ其画益々進めり画を求むる者争ひ集り常小其門小絶え各家の壁頭概ね其画を見る小至れり明治十一年諸國遊歴中足を坂地小駐むるの際該地の豪商某画を女子小乞ひ一葉を得て金千円を贈りしといふ

奥原晴湖女史

秋月明光満
碧空窓前
一啜
中杯
三更未
寐今夜興
寂々虫聲雜冷風



四十七

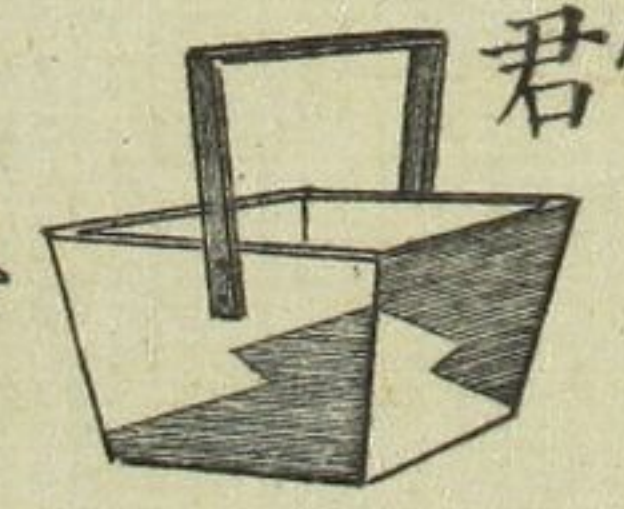
君ハ旧鹿兒島の藩士あり文
 久年間藩侯の内命を受け寺
 島較島森吉田町田の五氏と
 英國不至り大ひ小商業の巨
 を学ぶ維新の際召されて大
 坂府判事外國官兼務不任だ
 成辰の役防城陸軍少将授泉
 防禦として大坂小出張君
 軍器糧食を調べ大ひ小其行
 を助く後ち職を辞し藍の製
 法小尽カシ礦山を開き株式
 會社を設け銀行等の商事小
 拮据従事せらる

五代友厚君
 商法の活機小
 通じ関西
 の商
 権を握り能く
 巨萬の富
 を致し實小
 有為の人といふべし



君ハ勢州津の旧藩士あり幼
 小して文学をこのと好んで
 百家の書を讀み詩文を克く
 以成辰の役賊軍の將とあり
 諸処小轉戦中前陸軍大将西
 郷隆盛氏と戈を交へしこと
 ありと王政維新の後ち茨城
 縣の中属を拜せらる后ち辞
 職して東京小来り曙新聞社
 小入りて社負とあり論説を
 確實小し記事を密小さる、
 を以て當時東京五大新聞中
 の一とあれり

曙新聞中村武雄君
 客枕衾寒愁
 夢驚孤燈影
 暗正三
 更
 洪
 濤
 啣
 岸
 終宵怒霜月
 懸窓永夜明



君ハ東京の人也稟性温厚小
 して和歌を好む曾て旧藩
 の士黒沢翁九不就て学びて
 其奥技を極む明治八年君同
 志を募り同四月十七日第一
 号を発売之を東京繪入新
 聞といふ以来六年間断あ
 く出版其新聞の繪入をし
 て幼童婦女小も解し易きを
 以て市中到る処該紙を見ざ
 るあく是れ君の絶藻の致
 処小して毎日出版の紙教二
 万枚不進といふ



繪入新聞前田健次郎君
 同市人ハあが
 小
 坪のやとあも
 あやふつ付々々

君ハ下総佐倉の人あり初め
 大心武術不用ひりか
 後ち江戸不來り蘭書を学ぶ
 慶應三年幕命不依り亞米利
 加合衆國不航以明治維新の
 后ち開拓使大藏省等不仕
 し明治六年澳國博覽會事務
 官として彼地不赴き蘭人不
 就て農學を質し媒助偃曲氣
 筒の三事を我國へ傳へ農學
 社を麻布不開き農學雜誌開
 拓雜誌を發弘し大心不農事
 を奨励せらる



津田仙君
 一帶青山景色幽
 前人田地
 後人收
 後人收得
 休欣喜亦有收人
 在後頭

君ハ東京の人猫々道人と号
 以幼ホして伶俐好んで稗史
 小説を綴る曾て横濱ニ在る
 の日横濱毎日新聞の記者ト
 ある幾く許もあゝ東京ニ飯
 り一の仮名新聞を出版於之
 をかあよみ新聞といふ明治
 十二年の冬いろは新聞の社
 長とあり新聞中殊ニ猫洒落
 誌の一欄を設け府下校書社
 會の景況を具ニ穿ち一々之
 を新聞上ニ報だ之れ猫々道
 人の号ある所以歟



翁ハ下総佐倉の人也別号を
 木堂といふ年若くして江戸
 不來り幕医辻元崧庵の門ホ
 入り大ニ医学術を研究す柳
 東京の地形たるや低地ある
 不由り脚氣を煩ふ者年々數
 多あるを察し脚氣療治の方
 法ニ著目し大ニ發明する
 處あり依て脚氣病院を横濱
 不建て内外の人民を治り方
 今東京府の所管ある本郷脚
 氣病院の御雇ホて多く患者
 を救ハれたり



公ハ旧鹿見島の藩士也通称
 を厚之丞といひ成齊と号し
 性温厚にして文学を好み詩
 文を善く初め昌平黌に入
 り修学し后藩命に依り藩邸
 此学校を監督し文久年間英
 國の軍艦鹿見島に來りし時
 公出て英人と應接し明治五
 年朝小仕へ諸官を經今修史
 館一等編修官にして従五位
 小叙せりる公著は処の書數
 部あり萬國公法和解編年日
 本外史等尤も世に流行ハる

編修官重野
 安繹公



樹裏殘鶯窓外
 轉郵亭待得尺天傳

明治十四年二月廿六日
 同 年四月三十日
 同 十五年五月一日

出版御届
 出版發兌
 別製本御届

定價金大錢

編輯人
 出版人
 發兌人
 同
 同

東京府士族
 安井乙熊
 同 平民
 芝區芝西應寺甲三番地
 平野傳吉
 同區芝宮本甲壹番地
 山中市兵衛
 山中孝之助
 山中喜太郎

各國書林

西京	田中治兵衛
全	藤井孫兵衛
大坂	前川善兵衛
全	岡島真七
全	柳原喜兵衛
全	小谷卯八郎
全	前川源七郎
尾州名古屋	川瀬代助
全	萬屋東平
全半田	小栗太郎兵衛
美濃大垣	岡安慶助
参州岡崎	本屋文吉
駿河静岡	浪花屋市造
全	米山定昌
豆州肥田村	柿島宇吉
全三島	堺屋又三郎

各國書林

豆州下田	平野屋久七
全蝶々野	丸屋善兵衛
相州小田原	米屋忠兵衛
全	伊勢屋次郎丞
全横須賀	竹川新四郎
全藤沢	川上九兵衛
全伊勢原	山田淺次郎
甲州山梨	内藤傳右衛門
全柳町	徵古堂
全上野原	富田秀實
武州横濱	吉川伊兵衛
全八王子	高島惠三
全熊谷	松枝悦三郎
全鴻ノ巣	長島爲一郎
上総佐貫町	小松屋長七
下総千葉	藤屋錠次郎

各國書林

下総佐原	正文堂利兵衛
野州足利	和洋商社
全眞岡	塚田貞藏
全朽木	叶屋儀右衛門
全	小林八郎
全	糸屋清助
全上三川	萩原藤作
全宇都宮	佐藤静雄
全	田中清太郎
全	田野邊忠平
上州桐生	竹内藤吉
全高崎	煥乎堂
全	文心堂
全前橋	黒崎長三郎
常州水戸	川又銀三
全下館	須藤市左工門

信州長野

全	西澤喜太郎
全	岩下伴五郎
全	田中弥兵衛
全	田中清左門
全	水琴堂爲吉
全	藤松屋棟十郎
全	榑屋重平
全	高見屋甚左工門
全	井出孫一
全	鼠屋甲藏
全	矢島金八
全	協和堂本店
全	三浦源助
全	近岡屋太平
全	大橋甚吉
全	守川吉兵衛
全	土井守三郎

越後葛塚

全	河上權三
全	三條屋七十郎
全	鳥屋十郎
全	上田屋治八
全	中村屋作平
全	松田周平
全	伊勢屋甚平
全	堀治作
全	林富吉
全	島屋六平
全	樋口屋小左工門
全	野口保吉郎
全	番場吉次郎
全	伊勢屋安右工門
全	糸屋作兵衛
全	伊勢屋源十郎
全	佐々木長藏

全石巻

全	山口啓之助
全	池野藤兵衛
全	佐藤正兵衛
全	田中治平
全	龍田屋萬助
全	平澤屋喜四郎
全	上野屋彦太郎
全	瀬野屋作右工門
全	小池藤次郎
全	地主文三
全	地主清二
全	五十嵐太右工門
全	市村屋五郎兵衛
全	荒井清作
全	萬屋利七
全	須佐權平
全	本間金之助

羽後秋田	岡田治	助	肥前佐賀	武富重	實	東京書林	北島茂兵衛
全 酒田	白崎善	助	全大村	山口友	一	通丁目	稻田佐兵衛
陸前弘前	武田莊	七	薩州鹿見島	吉田幸兵衛	同丁目	同丁目	小林新兵衛
全	玉田平次郎	全	肥前熊本	青木鏘左門	同	大傳馬丁三丁目	東生龜次郎
全	石井常	吉	常州下館	長崎次郎	本石丁三丁目	通油丁	江島喜兵衛
全	野崎九兵衛	助	全龍ヶ崎	八幡屋幸助	南傳馬丁三丁目	馬喰丁三丁目	水野慶次郎
全 青森	池田吉	助	東京芝	岡野昌次	同	茅丁	穴山篤太郎
全 八戸	浦山太郎兵衛	吉	野州足利	山中市兵衛	同	新大阪丁	石川治兵衛
全	浦山政	吉	日向宮崎	山中支店	同	茅丁	荒川藤兵衛
渡島函館	魁文	社	薩州鹿見島	山中支店	同	茅丁	北澤伊八
全	常野嘉兵衛	平	陸前仙臺	山中支店	本丁三丁目	新大阪丁	小林喜右衛門
檜州姫路	山野長	平	遠州掛川	山中支店	通塩丁	本丁三丁目	柳川梅次郎
雲州松江	岡山喜三右衛門	登	沖繩縣下那覇西村	山中支店	通三丁目	通塩丁	内藤支店
筑前福岡	山崎	登	信州長野	山中支店	通三丁目	通塩丁	丸屋善七
全 柳川	開進	社	東京銀座三丁	山中孝之助	銀座四丁目	通三丁目	博聞社
肥前佐賀	河内莊	助	全四丁目	山中喜太郎	通三丁目	通三丁目	松田幸助

